



I 第20週の発生動向 (2025/5/12~2025/5/18)

- 水痘については、三戸+八戸市保健所管内及び上北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**警報レベル**となりました。また、東津軽+青森市保健所管内で**警報**が継続しています。
- 伝染性紅斑については、三戸+八戸市保健所管内及び西北保健所管内で**警報**が継続しています。
- 百日咳については、県内全ての保健所管内で患者が報告されており、特に、中南保健所管内及び三戸+八戸市保健所管内の報告数が多くなっています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

II 第20週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

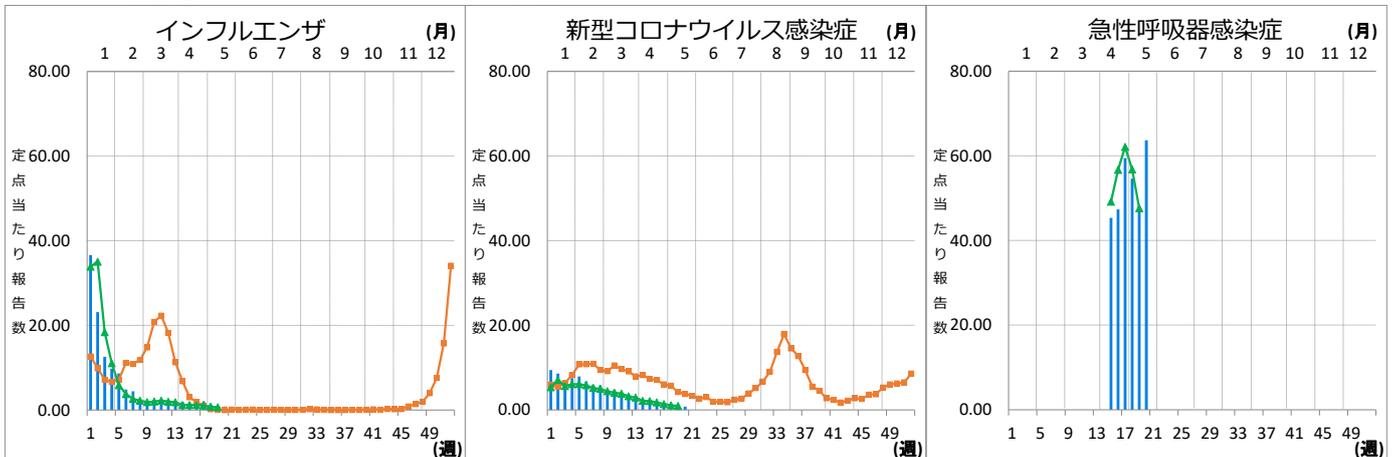
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	7	0.64	6	0.60	6	0.60	4	0.67	18	2.00	2	0.33	43	0.83	-5
	新型コロナウイルス感染症	3	0.27	7	0.70	8	0.80	4	0.67	9	1.00	10	1.67	41	0.79	-4
	急性呼吸器感染症	1030	93.64	439	43.90	603	60.30	361	60.17	558	62.00	321	53.50	3312	63.69	861
小児科	RSウイルス感染症	1	0.17	4	0.67	1	0.14	1	0.20			2	0.50	9	0.26	-2
	咽頭結膜熱	1	0.17			2	0.29	3	0.60			3	0.75	9	0.26	-5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.50	6	1.00	15	2.14	6	1.20	3	0.50	6	1.50	39	1.15	17
	感染性胃腸炎	31	5.17	12	2.00	48	6.86	13	2.60	8	1.33			112	3.29	35
	水痘	16	2.67	5	0.83	14	2.00			17	2.83			52	1.53	3
	手足口病	1	0.17	3	0.50									4	0.12	0
	伝染性紅斑	1	0.17	10	1.67	28	4.00	10	2.00	3	0.50	1	0.25	53	1.56	18
	突発性発しん	2	0.33	4	0.67	1	0.14							7	0.21	1
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎											1	0.25	1	0.03	0
眼科	急性出血性結膜炎			1	0.33									1	0.10	1
	流行性角結膜炎							2	2.00					2	0.20	2
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎					1	1.00					6	6.00	7	1.17	5
	無菌性髄膜炎															0

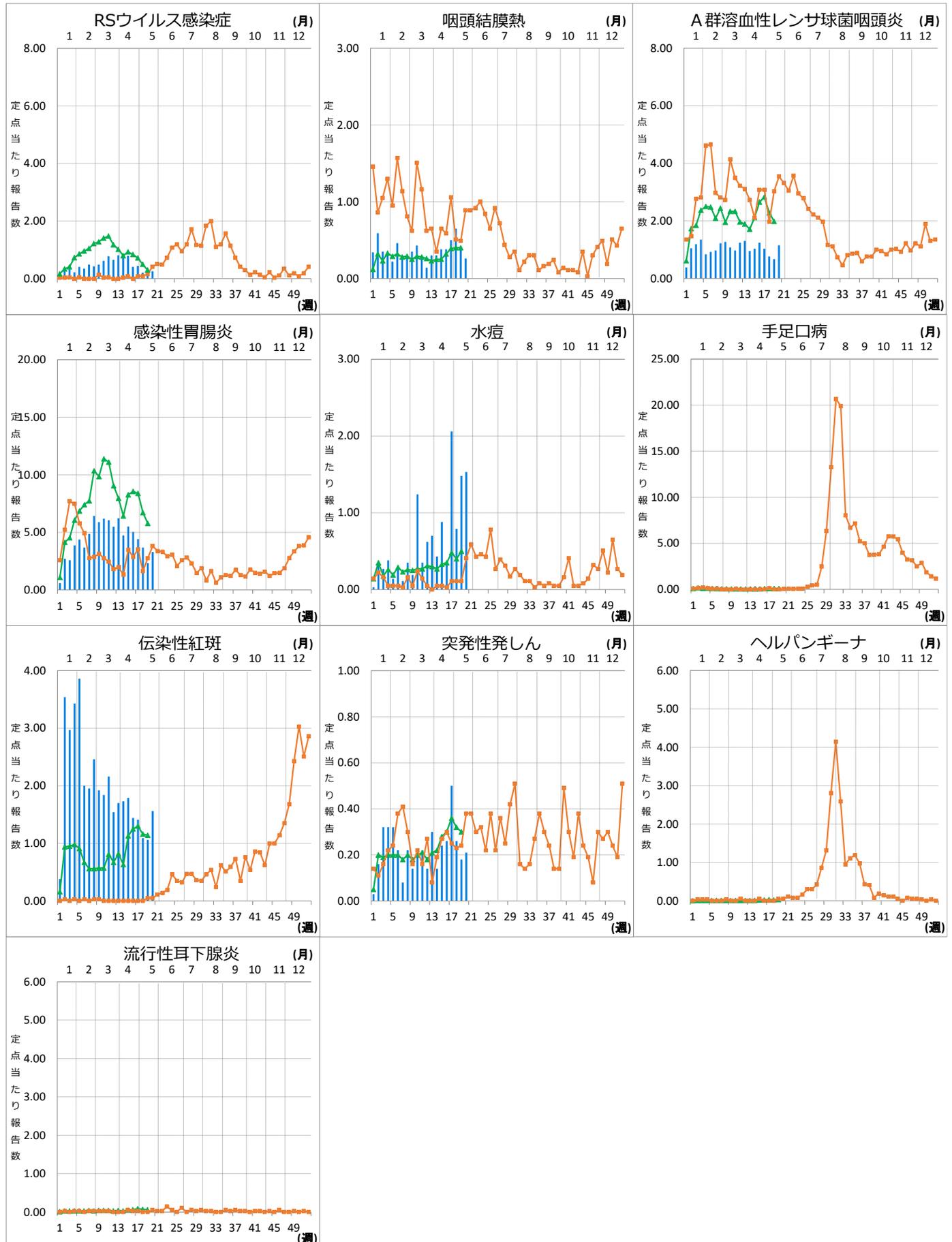
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025年第20週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は2025年青森県、 は2024年青森県、 は2025年全国



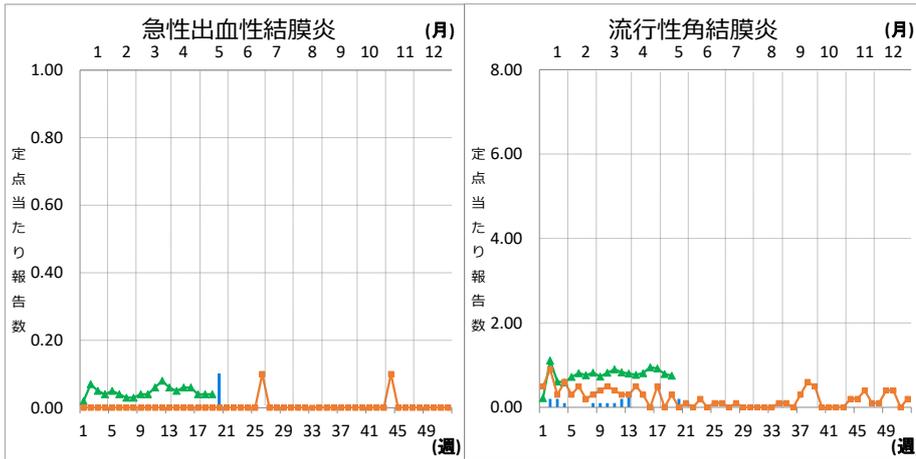
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 —■は2025年青森県、■—■は2024年青森県、▲—▲は2025年全国



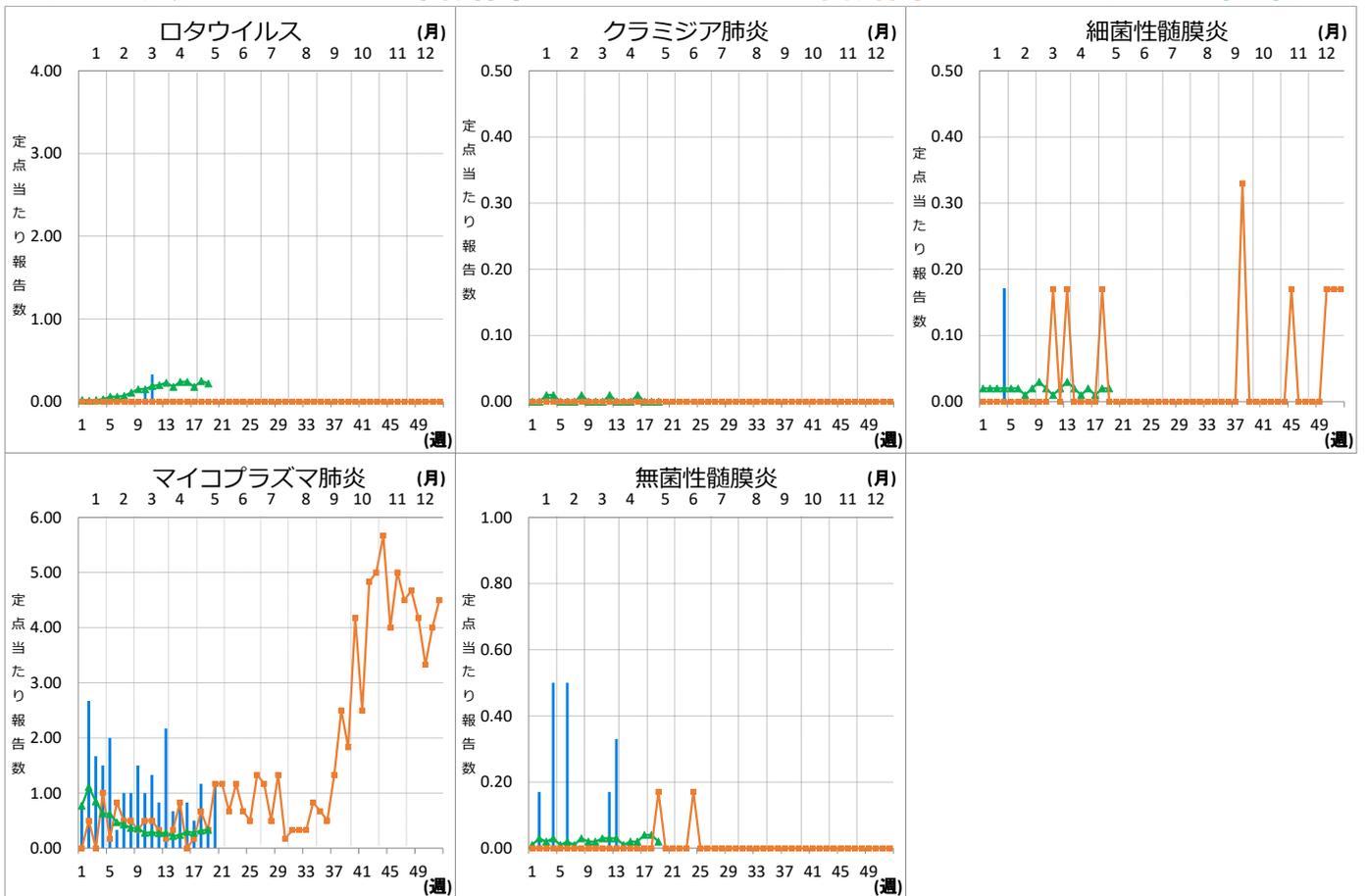
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 —は2025年青森県、■—■は2024年青森県、▲—▲は2025年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 —は2025年青森県、■—■は2024年青森県、▲—▲は2025年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

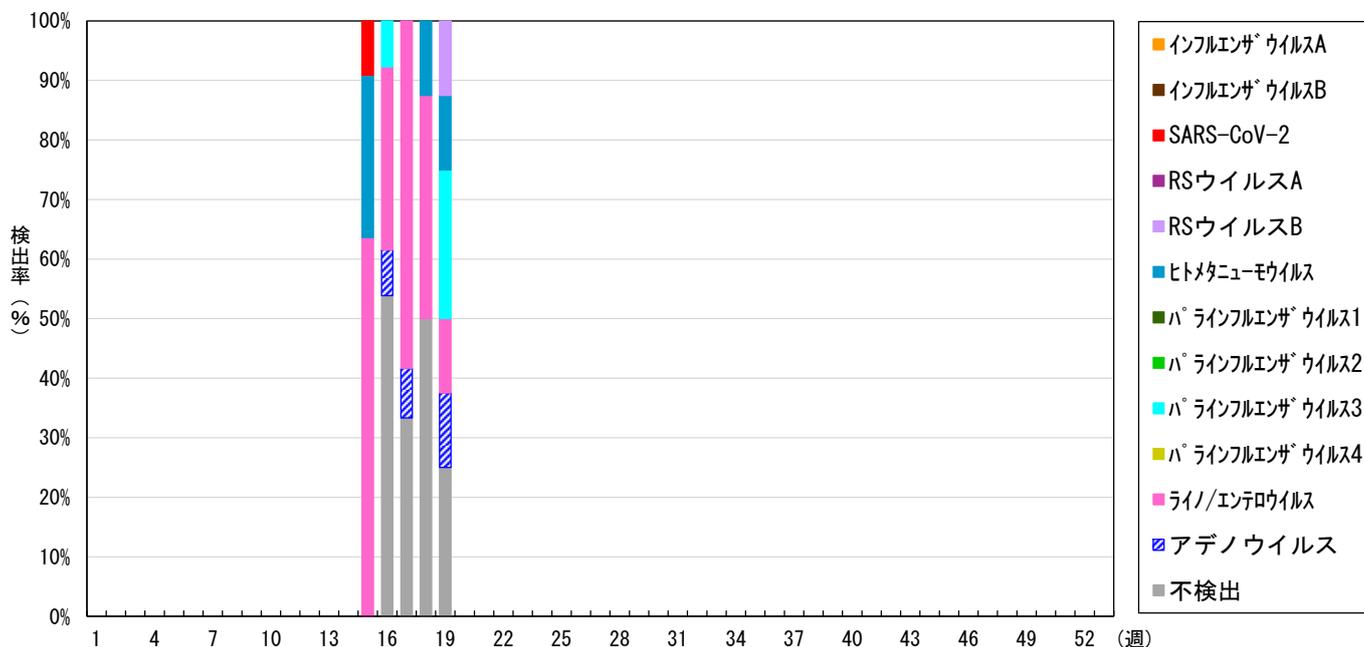
(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 15~20 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週
提出検体数	11	12	12	8	7	7		
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0			
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0			
SARS-CoV-2	1	0	0	0	0			
RSウイルスA	0	0	0	0	0			
RSウイルスB	0	0	0	0	1			
ヒトメタニューモウイルス	3	0	0	1	1			
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0			
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0			
パラインフルエンザウイルス3	0	1	0	0	2			
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0			
ライノ/エンテロウイルス	7	4	7	3	1			
アデノウイルス	0	1	1	0	1			
不検出	0	7	4	4	2			
検査待ち	0	0	0	0	0	7		

※第16週に提出された検体のうち、1検体からライノ/エンテロウイルスとアデノウイルスが検出されました。

※第19週に提出された検体のうち、1検体からライノ/エンテロウイルスとアデノウイルスが検出されました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週~)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 20 週）

- ・結核（二類感染症）：中南 1 人 （2025 年計： 39 人）
- ・つつが虫病（四類感染症）：八戸市 1 人 （2025 年計： 4 人）
- ・アメーバ赤痢（五類感染症）：八戸市 1 人 （2025 年計： 1 人）
- ・百日咳（五類感染症）
：青森市 2 人、中南 13 人、三戸 1 人、八戸市 10 人、西北 1 人、上北 1 人、下北 3 人 （2025 年計： 320 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 17 週～2025 年第 20 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
17	結核2人 劇症型溶血性レン サ球菌感染症1人 百日咳2人	結核2人 百日咳10人 梅毒1人	侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人 百日咳34人	百日咳1人	百日咳2人	百日咳1人
18	侵襲性肺炎球菌感 染症1人 百日咳2人	侵襲性肺炎球菌感 染症1人 百日咳7人	百日咳23人	百日咳2人	レジオネラ症1人 百日咳4人	
19	結核1人 つつが虫病1人 百日咳2人	結核1人 百日咳7人	百日咳19人	百日咳1人	つつが虫病1人 百日咳1人	百日咳2人
20	百日咳2人	結核1人 百日咳13人	つつが虫病1人 アメーバ赤痢1人 百日咳11人	百日咳1人	百日咳1人	百日咳3人

百日咳について、以下のとおり追加しました。

- ・第 18 週…上北+1 人
- ・第 19 週…中南+2 人、三八+1 人、上北+1 人

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025年第1週～第19週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス
累積報告数	4635	3	19	471	9	3	203	55	9	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ポツリヌス症	マラリア
累積報告数	3	2	1	23	6	50	53	53	1	7
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	588	1	166	76	574	9	234	8	59	600
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
累積報告数	270	11	295	31	1762	210	4755	58	26	34
分類	五類	五類	五類	五類						
疾病名	百日咳	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症						
累積報告数	16475	6	116	4						

青森県（2025年第1週～第20週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群
累積報告数	39	5	4	4	1	6	1	1	4	1
分類	五類	五類	五類	五類						
疾病名	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	百日咳						
累積報告数	3	10	8	320						

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日報告はありませんでした。

Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025年第20週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第20週	児童・婦人関係施設等	25	三戸保健所

2025年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月						6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18週	19週	20週	21週	22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週		
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0											14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0											235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	0	0	1											30
	発症者数	74	228	136	128	0	0	25											591
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	0											6
	発症者数	0	37	25	10	5	0	0											77
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0											0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0											0
計(月別)	件数	5	16	14	12			3											50
	発症者数	81	335	230	216			41											903

感染症の窓

2025年の青森県における百日咳の累積報告数は、第19週時点で284人で、これまでの過去最多となる2018年の85人を大きく上回り、現在も増加が続いています。

百日咳を予防する上で重要な対策の一つがワクチン接種です。ワクチン接種により、百日咳の罹患リスクを80～85%程度減らすことができるとされています。2024年度以降、主に用いられているのは5種混合ワクチンで、1つのワクチンで5つの感染症（ポリオ、百日咳、破傷風、ジフテリア、Hib感染症）を予防する効果が期待できるものであり、定期予防接種として受けることができます。

しかし、百日咳ワクチンの免疫効果の持続期間については、諸説ありますが、約3～4年で減弱するといわれており、生後2～7か月の間に初回接種を実施した場合、小学校就学前にはワクチンの効果が弱まっている可能性があります。このため、日本小児科学会では、就学前と11～12歳の2回の追加接種（任意接種）を推奨しています。

周囲に定期接種前の子どもがいる場合や学校等での流行が懸念される場合は、かかりつけ医に相談の上、追加接種を検討することも有効な対策の一つです。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

👉 [百日咳\(厚生労働省 HP\)](#)



百日咳のワクチン接種

感染症対策

百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきの特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作

わこせきやうほつさ

チアノーゼ

顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止

に進展することがあります。



こんな症状がみられます

カタル期 (約2週間持続)
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなります。

痙攣期 (約2～3週間持続)
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

回復期
激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約2～3か月かかります。

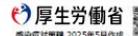
予防と対策

百日せきの予防には、生後2か月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年齢が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。

せきが続く場合は、医療機関を受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの緊急 <https://kodomo-emergency.jp/>」のサイトを参照したり、「#8000 (こども医療電話相談)」にご相談ください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



感染症対策課 2025年5月作成

出典：厚生労働省ホームページ